

第2号議案—1

品質保証研究会 平成26年度活動計画

1. 活動基本方針

活動成果のなお一層の充実とその活用を図るため、以下の活動を実施する。

- ・全会員対象の講演会、見学会を計画し、会員相互の啓発を図る。
- ・定例研究会活動として、第1、第2の各グループのテーマに基づく、輪読、講義、購読、見学等の活動を推進すると共に、その活動成果を取り纏めて、会員の活用に供するように努める。
- ・会員間の情報交換、コミュニケーションの場の提供を図るため、QASG ニュースを発行すると共に、ホームページの有効活用を図る。

この方針に基づき、平成26年度の具体的な推進計画を以下に記載し、全体の活動計画(補足)を表1に示す。

2. 活動計画内容

2.1 総会

- ・第24回通常総会を開催する。総会終了後、定例研究会活動報告(第1グループおよび第2グループ)、特別講演(柳田邦男氏による「福島事故とは何か」)、および懇談会を行う。

2.2 講演会の開催

下期(平成27年1月)に1回の講演会を予定する。

2.3 見学会の開催

下期(平成26年10月)に1回の見学会を予定する。

2.4 「QASG ニュース」の発行

年度内(平成26年9月、平成27年1月、27年5月)3回のQASG ニュース発行を予定する。

2.5 定例研究会活動

(1) 第1グループ(リーダー: 武田幹事)

『研究テーマ: 品質システムの研究「原子力QMSのあるべき姿に関する研究 -セクタ規格の調査・研究-」』

◎研究の進め方:

原子力QMSのあるべき姿を追求するためセクタ規格の調査・研究を行い、原子力QMSのあるべき姿について提言する。

具体的には、自動車/医療/航空宇宙業界のQMSに関するセクタ規格とISO9001:2008との比較調査の結果、及びQMSに関する要求事項の最新の動向として、ISO9001:2015改定案(ISO/CD 9001)の調査、JEAC4111、JEAG4121 附属書-1の改定案調査、IAEA GSR Part2 DS456 改定案の調査、NSQ-100, JEAG4121-2009, NQA-1-2008の比較を行った結果をもとに、原子力業界として実効的な要求事項となり、取り入れるべき要求は何かの観点から議論を行い、原子力セクタ規格への提言としてまとめる。

(2) 第2グループ(リーダー: 氏田会員)

『研究テーマ: エラーマネジメントに関する調査研究』

◎研究の進め方: 今年度の研究テーマは大きく二つで計画する。

◆【福島第一事故の総括】

①福島第一事故の分析と評価

- ・福島第一事故時緊急時対応レジリエンスエンジニアリング(RE)/高信頼性組織(HRO)分析(第2回12/M)

②安全思想の再構築

- ・原子力の自主的安全性向上論点、整理(第1回8/20)
- ・原子力の自主的安全性向上論点 役割分担と工程の提言(第2回12/M)
- ・確率論的安全評価(PRA)日米比較分析(第1回8/20)
- ・安全思想の再構築工程検討(第3回3/E)

◆【レジリエンスエンジニアリングの適用】

①Resilience Analysis Grid(RAG)の検討

- ・RAGシートの見直し、再分析(第1回8/20)
- ・RAGのQA活動への反映、詳細化(第2~3回)

②良好事例の分析

- ・良好事例のまとめ(第1回8/20)
- ・組織事故分析9例から良好事例抽出(第2~3回)

以上

